

2012（平成24）年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2012（平成24）年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2013年5月30日開催の理事会で承認されましたのでここにご報告いたします。収支決算の概要は以下のとおりですが、詳細は、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

消費収支は、帰属収入合計が339.1億円、消費支出合計が347.6億円で、帰属収支差額は8.5億円の支出超過となりました。当初予算では2.3億円の帰属収入超過を見込んでおりましたが、収入が予算を下回る一方で、就学キャンパス再配置に伴う諸々の経費が嵩んだことや、不動産や機器備品の処分差額が予算対比で膨らんだため支出超過となりました。

消費収入の主なものは、授業料等の学生生徒等納付金261.5億円、国や地方公共団体からの補助金28.1億円、入学検定料等の手数料19.8億円、資産運用収入7.8億円などです。前年度決算と比較しますと、学生生徒等納付金が、大学・高等部の在籍者数及び女子短期大学の入学定員の減少により減収となり、手数料以外の収入も減ったことにより、帰属収入は減収となりました。

消費支出の主なものは、人件費192.9億円、教育研究経費118.1億円、管理経費23.8億円、資産処分差額10.5億円などです。教育研究経費には、ICTネットワーク関連費用6.1億円、キャンパス内清掃委託費3.0億円、大学図書館業務委託費2.6億円、就学キャンパス再配置関連費用1.5億円、東日本大震災被災学生に対する学費減免費用6千万円などが、管理経費にはICTネットワーク関連費用5千万円、就学キャンパス再配置延期に伴う修学支援金6千万円などが含まれています。資産処分差額には、不動産2.9億円や教育研究機器2.7億円、有価証券4.1億円（評価差額を含む）などを計上しています。

資金収支に計上される施設関係支出の主なものは、大学17号館新築工事56.1億円、高等部校舎建築工事24.6億円、大学1号館及び7号館の耐震補強工事2.3億円などです。また、大学17号館及び高等部新校舎建築のために借入れた資金の返済が今年度より始まり、2.7億円を前年度の借入金返済支出に増額して計上しています。

2012年度は、大学17号館、高等部北校舎・PS講堂が完成し、大学の就学キャンパス移行に伴う関連費用の負担など多額の支出となりましたが、これまで積み立てた将来計画引当資産と金融資産を充当するなど、支払資金の減少を極力抑えるよう対処いたしました。再開発により取得した固定資産の維持費や減価償却額などが新たな収支の圧迫要因となる一方で、青山キャンパス再開発経費、老朽施設の更新費用、教育研究の充実等に係る資金需要の増加が近年顕著になり、中・長期的展望を持った財政運営が重要となってきております。

この4月から大学就学キャンパスの再配置を行い、新たな体制での歩みをはじめた青山学院は、これからの時代の要請に適った取組みを全学的に推し進めてまいります。更なる教育研究の充実を図るためにも、収支構造の再構築を進め、限られた原資を有効に活用して財政運営を進めてまいります。

以上